

## 岡山県災害派遣福祉チーム(岡山 DWAT)事務局・災害派遣福祉チームの動き

(株)富士通総研

時期	本部・事務局の動き	DWAT チーム員の動き	ポイント	状況等
事前の状況	岡山県災害福祉支援ネットワーク(社会福祉協議会、県共同募金会、日本赤十字社岡山県支部、県老人福祉施設協議会、県保育協議会、県障害福祉施設等協議会、岡山市社会福祉協議会、岡山NPOセンター、県民生委員児童委員協議会、日本青年会議所岡山ブロック協議会、県社会福祉法人経営者協議会)は県との協定締結を秋に予定していたが、既に人員募集・育成は実施していた。 6/14には県とNWは推進会議を開催。		○推進会議・人員募集、育成を実施していた →NW 構成団体の理解 →DWAT 隊員の動機づけ	
7月6～8日	6日に避難勧告発出、小田川等決壊			岡田小周辺は特に被害が大きかったため、人が集中、一時期 2000 人近くが避難し、その後に藪小学校、二万小学校等の他の避難所に分散避難することになる
7月9日	<b>第1回岡山 DWAT 緊急会議開催</b> →避難所への派遣の必要性を協議 → <u>県・倉敷市と協議の結果、倉敷市真備地区岡田小学校を対象に先遣調査の実施決定</u>		●先遣調査の決定 →決定までには時間を要した (協定締結前であり、市町村にも DWAT が周知されておらず、その知識がないため説明を要した)	
	先遣隊派遣準備開始・ →メンバー選出(後の第1期派遣を想定して選出) <u>京都 DWAT に先遣隊の活動支援要請、武田先生、京都府職員による支援決定</u> →説明用資料等、活動準備	→先遣隊メンバー選出(緊急協議時に協力依頼・ある程度決め打ちで実施) メンバーは活動準備	●先遣活動の実施 →被災地域の確認・支援見極め・活動環境確認のノウハウがないため、熊本の経験を持つ京都府が先遣隊の支援をしながら活動立ち上げを支援する →あわせて熊本派遣時の資料等を FRI 提供	
7月10日	岡田小に岡山 DWAT 事務局も入り、先遣隊から報告を受ける →岡山 DWAT による先遣活動時における被災者支援の実施状況、他専門職からのフォロー養成要望から、本格活動への移行が必要であることを確認	岡田小に岡山 DWAT(+京都 DWAT・京都府職員)先遣隊派遣 →避難所運営者、支援者からの聞き取りを行い、避難所で活動していた <u>DMAT・保健師と情報共有を行う等連携開始・初期の連携体制構築</u> →実際に虐待案件の調整支援も発生	●医療・保健と連携開始、初期の連携体制構築 →DWAT がつながるべき先がわかっていた →医療・保健の他専門職もつながる先を求めている	行政に岡山 DWAT が入ることは伝えていたものの、実際には避難所管理者らには伝わっておらず、説明の必要があったが、コーディネータの知人が支援に入っていたことから大きなトラブルなく避難所に入れた。 現地には、既に日赤、DMAT、AMAT、災害看護ナース、保健師チームが入っていた  京都 DWAT による先遣活動支援を終了
	岡山 DWAT 事務局は岡田小学校を対象に 8 月中旬頃を目途に県内派遣による活動が必要と判断 →本格活動への移行の必要を県に報告 →活動の導入支援として、 <u>岩手県 DWAT に現地コーディネータの支援要請、加藤氏・千葉氏による支援決定</u> →支援スケジュール策定、7/11 より以降の岡山 DWAT チーム員を募集することを決定	→先遣隊メンバーは現地コーディネータと第1班チーム員に移行、活動準備開始	●活動体制の整備 →現地コーディネータの設置 →現地コーディネータは決定したものの、実際の活動のノウハウが必要であることから、岩手県が支援を行い活動体制の整備を行うことになる  ●支援スケジュール策定 →見極めはするが、状況により変化することの想定	県・市の決定から、当時は岡田小学校のみを対象に岡山 DWAT による県内派遣支援を想定。但し、岡山 DWAT のチーム員も被災しており、支援量については不安が残り、また、実際の活動に際してのノウハウも不足している状況にあった。

時期	本部・事務局の動き	DWAT チーム員の動き	ポイント	状況等
7月11日		<b>岡田小で岡山 DWAT による活動開始(導入)</b> →活動環境の確保と整備、情報収集(並行して他避難所の状況等の確認も開始) → <u>医師・保健師と連携アセスメント(ラウンド)の開始</u> →医療ミーティングへの出席開始 →避難所の環境整備開始	●活動環境の確保 →拠点となる場所の確保 ●医師・保健師との連携アセスメント →福祉の専門職による目	夕方に岩手 DWAT 加藤氏(7/12~20)・千葉氏(7/12~17)、現地入り →加藤氏は主に事務局及びコーディネイト業務、千葉氏は主に現地チームの活動を支援
	DMAT が Kura-DRO にて岡山 DWAT の取り組みを紹介したことから、「急性期から次の段階への移行が課題となっている」として、倉敷市保健所より同会議に参加招請(毎朝・夕開催) →12日より岡山 DWAT 事務局の参加を決定			Kura-DRO(Kurashiki Disaster Recovery Organizationの略称、倉敷地域災害保健復興連絡会議) →行政や医療、保険、福祉等の団体が連携して真備町地区を中心に活動。必要な支援を集約、共有し、地域の実情に沿った活動を7/9より活動していた
7月12日	Kura-DRO に岡山 DWAT 事務局初参加 →DWAT 活動を説明したところ、対象拡大を求められるが被災県内の支援としては精一杯の状況であり、各7台のためには他府県派遣が必要と説明			
		岡田小で本格活動の開始 →他支援者からも要配慮者情報が多く入るようになる →要配慮者の実態把握が重要・保健師、JRAT 等と3班に分かれて聞き取りに回る		
7月13日		体育館に「なんでも相談」として相談コーナーを開設 →DWAT チーム員が対応、相談内容等については日報でも取りまとめ 他職種とのラウンド、相談支援、環境整備を中心に展開 →この頃から他避難所等の実態把握が進む →菌小学校:医療・保健・福祉の連携体制が取れておらず、全体把握やアセスメントもできておらず、管理者である校長、保健師より派遣要望 →二万小学校:医療・保健・まちづくり協議会等多数の支援者が入っているが、福祉ニーズもあがっている …事務局に報告、協議	●相談コーナーの開設 →早期の課題発見 →避難所	要配慮者の情報等を記録 …のちに避難所を出た際の情報の申し送りに
7月15日	岡田小以外に菌小学校、二万小学校の避難所に DWAT のニーズがあることを把握 菌小学校:岡田小と同様に6名程度の派遣が必要の見立て 二万小学校:相談コーナーの設置(2名)の見立て →以上をもとに、県外派遣の必要について、避難所、Kura-DRO 等他専門職からの要望も含み県に報告 →その後、岡山県は岩手県、京都府に派遣依頼		●岡山県は岩手県、京都府に DWAT 派遣を依頼 →現地活動によって実態把握が進む →ニーズに対応するには県内リソースでは不足することから、支援受け入れが必要に →県外派遣要請に際しての難しさ・被災自治体である市の理解や調整、依頼フロー、依頼内容の精査	
7月18日		<b>二万小学校で活動開始</b> →相談コーナー、環境整備活動開始		活動箇所は、岡田小、二万小の2か所となる
7月19日		岡田小で体操教室(ひまわり教室)開始	●菌の会には校長をはじめとする小学校教諭、行政、	活動場所は、岡田小、二万小、菌小の3か所となる

時 期	本部・事務局の動き	DWAT チーム員の動き	ポイント	状況等
		<b>菌小学校活動開始</b> →岩手 DWAT 活動開始 (7/20 から岡山 DWAT 入り、連携して支援活動) →避難所管理者(菌小校長)を中心とする「菌の会」	医療・保健・福祉の専門職、地元のボランティアやまちづくり協議会が参加 →行政・専門職・住民(学校含む)が連携した体制	
	岡山 DWAT 事務局、岩手 DWAT、京都 DWAT 等と今後の活動と県外派遣についての意見交換		●今後の活動と県外派遣についての意見交換 →活動計画を立てることの難しさ・依頼を出すためには「要望」が必要 →計画は修正があることも想定	
7月20日		岡田小に <b>京都 DWAT</b> 入り、岡山 DWAT と連携して支援活動開始		岩手 DWAT の現地コーディネータ支援・現地活動支援終了
	第 2 回岡山 DWAT 緊急会議 →報告と協議を実施、活動期間を 9/2 までとする →県外派遣はお盆頃を目途に終了、以降は岡山 DWAT のみで活動、地域につないでいくことを確認 →その後、 <u>岡山県は静岡県、群馬県、青森県に派遣依頼</u>			
7月23日		医療チーム(DMAT、JMAT、AMAT)は撤収、地元医師会や病院協会への活動の引継ぎが進行 →DWAT の主な連携先も医療チームから保健師チーム、JRAT 等の見守りやリハビリ関係の団体に移行 相談支援コーナー、ラウンド等、活動は安定 →現地活動のコーディネータ・地域へのつながりも明確に意識した活動を志向		倉敷市の高齢者支援センターや保健師チームの活動が本格化、避難所の避難者と在宅の避難者のニーズ把握(アセスメント)始まる
	避難所内の DWAT 活動がルーティン化しつつある状況を踏まえ、現地コーディネータと協議 →現在の DWAT 活動は徐々に地元倉敷市等への引継ぎ準備を進めること、県外 DWAT は 8/21 までとし、その後は岡山 DWAT のみで対応していく方向で調整を進めていくことを確認			
7月24日		菌小に <b>静岡 DCAT</b> 入り、岡山 DWAT、岩手 DWAT と連携して活動開始		つどいの場等、その後の生活を想定した活動や連携の充実
7月27日		菌小の <b>岩手 DWAT 活動終了</b> 、岡山 DWAT と静岡 DCAT で連携して活動継続		
8月5日		菌小の <b>静岡 DCAT 活動終了</b> 、 <b>群馬 DWAT</b> 入り、岡山 DWAT は連携して活動開始		
8月6日	岡山 DWAT 事務局、倉敷市市社協と岡山 DWAT が取り組んできた避難所の集いの場(ふれあいサロン活動)の引継ぎに向け意見交換 →8月までは DWAT で活動継続、その後は市社協への引継ぎを前提に、岡田・菌小学校避難所責任者(学校)に対し、つどいの場の必要性和場所提供の要請を行うことを確認			Kura-DRO は Kura-DRON(倉敷市災害保健医療ネット

時 期	本部・事務局の動き	DWAT チーム員の動き	ポイント	状況等
	Kura-DRONに継続して参画			ワーク)に移行
8月10日		岡田小で「住まいアンケート」が実施 →相談コーナーには不安を訴える避難者が急増 行政等につなぐ・傾聴で避難者の意思決定を支援 並行して体育館集約に向けた動きが開始。		その少し前から避難所解消・仮設住宅移行を想定した 「住まいアンケート」が実施されていた
	備中保健所で活動していた Kura-DRO は医療関係者の撤収等で終結、その後継として倉敷市保健所を会場に Kura-DRON(+Network)が発足、岡山 DWAT の他に JRAT、AMDA 等各団体が参画	この頃より <u>避難所からの退所は本格化</u>	●退所の本格化・要配慮者の退所に向けての支援 →地域包括支援センター・ケアマネへのつなぎ、要介護認定の立ち合い等をサポート →本人同意の上で、避難所での状況等の情報シートを退所先に提供	岡山 DWAT、さらには地域への完全移行が視野に
8月13日		岡田小で京都 DWAT 活動終了・青森 DCAT 入りで岡山 DWAT は連携して活動継続 菌小の群馬 DWAT 活動終了、以降は岡山 DWAT のみで活動継続		
8月21日		岡田小で青森 DCAT 活動終了、県外 DWAT 活動は終了、以降は岡山 DWAT のみで活動継続	●岡山 DWAT のみで活動 →既に一度活動をしたチーム員が、再募集に応募し、活動に入る状況が見られた	<b>「活動体制の安定・支援の充実」は概ねこの頃まで 以降は「活動の引継ぎ」に移行</b>
8月27日	第3回岡山 DWAT 緊急会議の開催 →報告と、DWAT 活動終了後の取り組み(「つどいの場」の継続支援)について協議を行う			つどいの場の確保のため、避難所管理者である学校側と協議、体育館の一部を確保
9月2日	岡山 DWAT 活動終了		●岡山 DWAT の活動は終了したが、避難所は残っている →つどいの場を通じて、被災者、地域社協等への支援を継続することに	<b>活動終了に向け、岡山 DWAT は「活動の引継ぎ」として地域や団体等への支援のつなぎを実施</b>
活動終了後		岡山 DWAT に派遣活動を行った府県では、支援活動の棚卸等をそれぞれ実施 →チーム員・事務局としての活動の棚卸 →団体等への活動報告 →チーム員育成の研修での紹介・研修で派遣隊員がサポートに入る・等	●活動の棚卸 →共有の場・気づきの場が必要 →チーム員の成長	